

## ■はじめに

1970年代、受験競争の過熱化や偏差値重視の教育が社会的な問題となりました。それ以降、学習指導要領改訂の度に「ゆとり教育」、「生きる力」への方針転換が図られ、教科の授業時数と教える内容の大幅削減、選択教科の拡大や総合的な学習の創設などが進められてきました。

このような動向に対して、一般には学力低下を危惧する声も多く、「ゆとり教育」や「総合的な学習」が学力低下を招いているとする説もあります。

また、昨今の学力に関する論調では、ペーパーテストの点数や偏差値など、学習後すぐに数値で測定することが可能な側面のみを取り立てている傾向が顕著です。

そこで、本校が昭和58(1983)年度から実践を積み重ねてきた総合学習「BIWAKO TIME」が、生徒にとってどのような学習効果をもたらしているのか。在校生や社会人を含む卒業生を対象として、質問紙や聞き取りなどによって広く調査・検証を行いました。

## ■本校の研究の概要：平成17(2005)年度

### 1. 学校教育目標

「郷土を愛し世界へはばたく心豊かな生徒の育成」

### 2. 研究テーマ

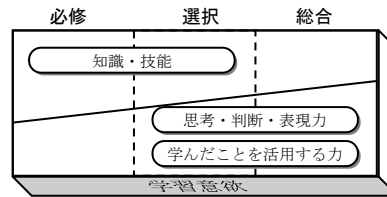
豊かな学力をはぐくむ教育課程の開発  
～環境・情報・人間からのアプローチ～

### 3. 本校の「豊かな学力」の捉え方

次のような4つの力の定着を図ることが「豊かな学力」につながると捉えています。

- ①知識・技能…学んだ力、学習到達度、学校知
- ②思考・判断・表現力…学ぶ力、学び方、機能的学力、方法知
- ③学習意欲…学ぼうとする力
- ④学んだことを活用する力…集団で高め合う力、問題解決場面で生かす力

### 4. 育てたい学力と必修・選択・総合学習の関連



### 5. 本校の学習領域

必修教科	基本的な知識・技能の確かな定着を図る。
選択教科	生徒の特性等に応じて、個の伸長を図る。
「BIWAKO TIME」	環境・郷土を題材として調査研究を行い、学び方を学ぶ。
「HUMAN TIME」	人間の生き方に関わって、よりよい生き方を学ぶ。
「情報生活科」	情報を活用するスキルとモラル・マナーの向上を図る。

## ■「BIWAKO TIME」の概要：平成17(2005)年度

### 1. “学び方を学ぶ”総合学習

「BIWAKO TIME」の学習は、本校が全校体制で臨む学習です。環境・郷土を題材として、学び方を学ぶ調査研究型の総合学習であり、必修教科等の学習で得た知識・技能を改めて認識し、より高次な知識体系へと再編化することをねらいとしています。

### 2. 「BIWAKO TIME」の特徴

- ①異学年合同  
1年生から3年生まで混成の研究グループを作ります。このことにより、複数回の学習機会をつくとともに、各学年の目標を持たせグループ内で役割分担をして、学習を進めさせることができます。
- ②領域別の学習  
研究領域に分かれて担当教師が中心となり学習を展開します。
- ③サテライト教室  
コンピュータ、図書、電話など学習をサポートするサテライト教室を作り、「BIWAKO TIME」の時間中はいつでも利用することができます。
- ④中間発表  
生徒同士がお互いに現在の調査活動の進み具合を確認し合い、今後の課題とその解決方法について助言し合います。
- ⑤領域別発表・全体発表  
領域ごとの発表を経て、領域ごとの代表が全校生徒の前で発表を行います。
- ⑥日程  
5月から10月にかけて、夏休みをはさんだ40時間という長い時間を使って、1つの課題にじっくりと取り組むことができます。校外学習の機会を持てるように、多くは午後2時間連続で設定しています。

領域		研究テーマ例
A	自然	水の汚染過程
		ミニびわ湖で育てよう
		ヨシで水をどこまできれいにできるか
		びわ湖の水質調査と浄化の現状 Let's Drink Water Of Lake Biwa Part II.
B	人と自然	プロジェクト Future ～今に生きる古の伝説と水～
		地震の被害とその対策
		ダムと川とのかかわり
		ヨシにかかわる人達 Search for SPARING
C	人	伝統的な漁業
		びわ湖エネルギーをつくる人々
		未来に生きる滋賀県人
		滋賀のボランティア もしも滋賀県が100人の村だったら
D	人と社会	がんばれ滋賀県～素晴らしい伝統産業～
		滋賀のお土産をつくろう
		近江商人の一生
		滋賀職人の熱き想い 滋賀の伝統的な和菓子
E	社会	姉妹都市と国際化
		クリーンエネルギー～よりよい滋賀へ～
		滋賀のいいところをアピール 膳所駅のユニバーサル・デザイン

# 「びわ湖学習」,「BIWAKO TIME」のあゆみ

## 「びわ湖学習」のはじまり

昭和50年代に知育偏重,進学一辺倒,輪切りの教育などが,大きな問題になりました。本校では,このような状況は,実は一人一人の生徒の特性を生かしていない点が問題であること,そして基礎的な学力を定着させ,個々の創造性を発揮させることが重要であると考えました。

本校は,昭和57(1982)年度から3カ年にわたって,文部省の研究開発学校の指定を受け,教育課程の改善のための研究開発に取り組み,「基礎的な学力の一層の定着を図り創造的知性を育てる教育課程の実践研究」という主題のもと研究をスタートしました。

この研究の中で,自主的・主体的な学習の仕方を身に付け,正しい判断力と実践力を培うためには,教科学習を統合的・総合的に学習する内容が必要であること,そして,教室という学習の場の枠を取り払い,自由度の高い学習を設定することの重要性を認識しました。その結果,このねらいを達成する活動を充実し,「教科学習」との連携を図る目的で,昭和58(1983)年度後期より,「郷土学習」ーびわ湖と私たちー,いわゆる「びわ湖学習」を開始しました。

以上,滋賀大学教育学部附属中学校「研究開発実施報告書(昭和57~59)」参考

## 本校の「びわ湖学習」「BIWAKO TIME」の変遷

年度	学習の名称	含む領域	内容等
昭和55 昭和56			自己を磨く活動として自主的課題研究に取り組み学年の枠をはずし,必要に応じ助言する学習の開始。
昭和57 昭和58 昭和59	総合学習を位置づける 郷土学習(びわ湖と私たち)	総合学習 (郷土学習(びわ湖学習) 性教育 生徒会活動 校外学習 道徳 英会話2年 人権学習 選択教科3年 フリータイム)	自主学習の時間の設定。構成員数を限定せず自主的選択学習の開始。 18のテーマ別分科会を設定し,異学年縦割りの学際的自由研究活動へと発展する。文部省の研究開発学校の指定を受けた取り組み。
昭和60 昭和61 昭和62	郷土学習	総合学習 (びわ湖学習) 性教育	1年生を対象に基礎講座の設定。発表会に向けてのメディア講習会を開く。深まりのある話し合い活動の展開の指導。
昭和63 平成元 平成2	びわ湖学習	総合活動 (校外学習) 生徒会活動	に分離する
平成3 平成4 平成5			環境学習,国際理解学習を展開する。
平成6 平成7 平成8	「BIWAKO TIME」	郷土学習 国際理解 環境教育 グローブ計画	びわ湖学習と国際理解学習をドッキングする。1,2年生郷土,国際理解学習で10分科会の開始。3年生は環境学習で外部講師による講話を実施。 「BIWAKO TIME」……「学び方を学ぶ」郷土学習,国際理解学習,環境学習のそれぞれに5分科会を開設する。
平成9~		環境・郷土に焦点化を図る	開設する領域・分科会の数を変更しながら現在に至る。

以上,滋賀大学教育学部附属中学校「生きる力を育てる総合学習の実践」,明治図書,平成9(1997)年参考

## 開設分科会の変遷

### 昭和58(1983)年度

分野	テーマ
1. びわ湖と人々の歩み	(1)びわ湖と古代の人々
	(2)びわ湖と中世の人々
	(3)びわ湖と近・現代の人々
2. 近江の文化	(4)近江の民話
	(5)近江の文学
	(6)郷土芸能(古典芸能)
3. びわ湖と産業	(7)伝統工芸
	(8)びわ湖と生活用水
	(9)湖上交通と人々
	(10)湖に生きた人々
	(11)びわ湖と工業
	(12)農業と水
4. びわ湖の自然	(13)びわ湖の誕生と歴史
	(14)湖流と気象
	(15)びわ湖の生物
5. びわ湖の課題	(16)赤潮と水質近畿の水がめ
	(17)自然破壊の現状と問題
	(18)水と生活

### 平成7(1995)年度

BIWAKO を見つめる 分科会	自然と環境	(1)郷土の風土 (2)びわ湖に生きる動植物 (3)実態調査『相模川』
	暮らしと文化	(4)びわ湖の今を生きる人々 (5)びわ湖に息づく伝統産業
	郷土の課題	(6)びわ湖の水の今,そして未来
		(7)びわ湖の開発のゆくえ
		(8)歴史の中の近江と100年後の滋賀
BIWAKO から見広げる 分科会	自然と環境	(9)びわ湖と世界の湖 (10)実態調査『酸性雨』
	暮らしと文化	(11)近代商人と日本の産業 (12)近江の食べ物・世界の食べ物 (13)近江の祭り・世界の祭り
	郷土の課題	(14)国際化する社会の中の私たち
		(15)「地球」がかかえる諸問題

### 平成12(2000)年度

